



18 瓦片鳩 山田宗美

一点

明治三十八年（一九〇五）

鉄、鍛造

二二・〇×二五・〇×三〇・〇

古瓦の破片に留まる一羽の鳩を表した置物。一枚の鉄の板を、ごく薄く打ち伸ばして立体的な造形にする、「鉄打出」と呼ばれた鍛造技法による。鍛造では考えられないほど、鳩の形が細やかに作り出され、充実した立体感がある。一方、その重量は驚くほど薄くて軽い仕上がりとなっている。宮内公文書館所蔵の『御用度録 宮廷費什具一』（調度局、明治三十八年）の中の購入に関する記録によれば、本作は、同年の一月に作者の山田宗美（一八七〇―一九一六）に対して「鳩置物」として発注され、同年八月三十一日付で納品されたものである。納品と同日付けで記された作者自身による見積書があり、「一、金六百五拾円也 鉄打出シ置物壹個 但シ社頭図 瓦片鳩」と記される。この書類により、本作の主題は社頭図であることが判明する。瓦片に留まる鳩は、古くより武人の守護神、国家鎮護の神として信仰されてきた八幡神の使いと読み解くことができよう。そして、本作の箱書きによれば、同年八月三十日に調度局長より明治天皇のお手許に差し出され、留め置かれた品であるという。納品され直ちにお手許に届けられたことが判る。本作の制作が依頼された明治三十八年一月は日露戦争の激戦の最中にあり、ここに勝利へのそして終戦への祈願が暗示されているのではなからうか。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shozokan